

令和4年度 校長だより 第10号

1 新たな年を迎えました。

新年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

3年生のみなさんのなかには、すでに就職先や進学先が決定し、春から始まる新生活を楽しみにしている人がいます。また、これから進路の実現に向けて、試験に挑むという人もいます。14日(土)・15日(日)に実施される大学入学共通テストまで2週間。志望校合格を目指して、毎日一生懸命勉強に励んでいることでしょうか。試験は、夢を叶えるための試練、関門のひとつです。体調管理に十分気をつけて、乗り越えてください。心から応援しています。



2年生はあと1年後、1年生は2年後、そうした立場になっていきます。先輩たちの姿をみて、自分のことをイメージしながら、有意義な高校生活にしていってください。

今年も最幸の一年になりますように。

2 「道」

中学生の頃に出会った本、松下幸之助氏が書かれた「道をひらく」。今から50年以上前(昭和43(1968)年)に出版されたものですが、何度読み直しても心に響きます。その本の最初の章、「運命を切りひらくために」から、「道」という内容を紹介したいと思います。

道

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。広い時もある。せまい時もある。のぼりもあればくだりもある。坦々とした時があれば、かきわけかきわけ汗する時もある。

この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。なぐさめを求めたくなる時もある。しかし、所詮はこの道しかないのではないか。

あきらめろと言うのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。

他人の道にこころをうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道はすこしもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。

(松下幸之助著『道をひらく』から)

3 本校を目指す中学生のみなさんへ

高校入試まであと2か月。受験勉強は辛く苦しいものですが、その先に、「一人ひとりの無限の『可能性の扉を開く鍵』」がきっと待っています。本校学校HPの校長ブログに、科学技術高校の学校生活の様子を日々アップしながら、みなさんにエールを送り続けます。